ラリグラス・ジャパン 2021 リポート

～ネパール・インドの女性と子どもの未来のために～

2021 年 11 月

認定特定非営利活動法人 ラリグラス・ジャパン（LJ）

〒108-0072 東京都港区白金 3-10-21

TEL＆FAX:03-3446-2193

E-mail:info@laligurans.org　http://www.laligurans.org

は　じ　め　に

いつもラリグラス・ジャパンの活動にご協力いただきありがとうございます。

２年近く続くコロナ禍により、さまざまな制約のもとに日々の生活を送らざるを得ない状況です。皆さまにおかれましては、ご不安やご不便の中でお過ごしのことと思います。

ラリグラスも、昨年春から現地訪問が叶わず、日毎、歯がゆさが募るばかりです。しかしながら、パートナー団体であるマイティ・ネパール、ＮＤＷＳ、レスキュー・ファンデーションの尽力により、引き続き皆さまのご支援を現地に届けることができました。

感染拡大により経済活動が停滞し、ネパール・インドの女性と子どもに迫る危険はさらに深刻なものとなっています。今回のレポートでは、ネパールとインドにおけるコロナ社会の実情と、厳しい環境下にあっても精一杯、力を注いでくれているパートナー団体の活動状況についてご報告させていただきます。

ラリグラス・ジャパン

お菓子の詰め合わせを貰い、笑顔を見せるマイティの女の子

【コロナ対策プロジェクトへのご協力のお願い】

ネパール、インドともに新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向にあり、危機的状況を脱したといわれています。しかしながら、断続的に行われたロックダウンにより、両国とも深刻な経済的打撃を受けました。

人身売買犯罪が起こる原因の１つは貧困です。自然災害後、人身売買犯罪が増加するといわれています。今回のコロナ危機後も、女の子たちが児童労働や強制売春の犠牲になる危険が高まると予想され、今こそ、女性と子どもたちを守るための活動が必要とされています。

私たちのパートナー団体は、長年培ってきたノウハウをもとに、コロナ禍によって浮彫りにされた課題への取り組みを始めました。しかし、活動を継続するための資金不足が課題となっています。コロナ禍の影響による資金難を理由に、これまで現地を支えてきた海外ドナーの支援の打ち切りが相次いでいるのです。

現地の活動が滞ることのないよう、パートナー団体を支えることが求められています。そこで、「コロナ対策プロジェクト」として、1 口 1,000 円の指定寄付を設けたところ、下記の方々にご協力いただき、計 257,000 円を募ることができました。厚くお礼申し上げます。

上田朋子　小野浩司　川村汎子　國森佳子　渋谷修　田邉浩一　手島綾　土居裕見子
長江さをり　西堀喜則　林和夫　松永一夫　丸山竹士郎　三橋久子　武藤禎　（敬称略）

引き続き、ご協力を呼びかけさせていただきます。寄付金は、生活困窮者への支援物資および感染予防の啓発キャンペーンの費用に充当する予定です。

どうぞ、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

	郵便口座・銀行口座
郵便振替	口座番号：　００１００－５－７１３６６１ 加入者名：　トクヒ ）ラリグラス　ジャパン ※銀行振り込みの場合 銀行名：ゆうちょ銀行 支店名：０一九（ゼロイチキュ）店（019） 口座番号：当座　０７１３６６１
銀行振込	銀行名：　三菱ＵＦＪ銀行 支店名：　麻布支店（店番：570） 口座番号：　普通預金　０１５８０５４ 振込先名義：トクテイヒエイリカツドウホウジン ラリグラスジャパン ※特定非営利活動法人としての口座です。
銀行振込	銀行名：　三菱 UFJ 銀行 支店名：　新宿中央支店（店番：469） 口座番号：　普通預金　４８５００６１ 振込先名義：ラリグラスジャパン　ヨシダクミコ （ネットバンキングの場合、空白はカウントされません。） ※当面はこちらの口座も継続します。

目　次

は　じ　め　に **1**

【コロナ対策プロジェクトへのご協力のお願い】 **2**

現地報告 **4**

マイティ・ネパール 4
レスキュー・ファンデーション 14
ネパール障がい者女性協会（NDWS） 19

イベント・その他の活動（2020 年 10 月～2021 年 9 月） **21**

2020 年度決算 **22**

2021 年度事業計画 **28**

会員・寄付者リスト **29**

【会員】 29
【寄付をしてくださった皆さま】 29
【ボランティアとして活動に参加してくださった皆さま】 30
【理事・役員】 30

現地報告

マイティ・ネパール

〈コロナ禍の現状〉

10 月 4 日現在、ネパールにおける新型コロナウイルスの累積感染者数は、795,959 人、死者 11,148 人を記録している。今年 5 月をピークに、1 日の新規感染者数は減少傾向にあるものの、未だ 1,000 人前後を推移し、高止まりの状態にあるといえる。

このような状況にある中、ネパール政府は初夏を迎える頃からロックダウンの解除に踏み切り、各種オフィスは通常業務を再開した。

感染拡大防止に大きな効果が期待されるワクチン接種は、今年 1 月 27 日から始まっている。第 1 段階として、インドから無償提供を受けた 100 万回分を、医療従事者を中心に約 43 万人に接種を行う予定だった。ところが、準備不足や見積もりの誤り等が原因で、期間中に接種を終えられたのは約 18 万人にとどまったという。

遅れをとったものの、地道に接種を推し進め、医療関係者の次の優先接種対象である高齢者への接種を開始した。ところが、今度はワクチンの在庫不足に見舞われる。今年春頃から無償提供を約束してくれていたインドが、ワクチン支援を停止してしまったのだ。今年 5 月、同国を「第 2 波」が襲い、1 日の新規感染者数は 40 万人超、1 日あたりの死者も 4,000 人を超えたのである。自国民へのワクチン接種が急務であるとして、ネパールに対するワクチンの提供をストップしてしまったのである。

その後、ネパール政府は中国からワクチンを購入することにした。また、米国と日本政府から、300 万回以上のワクチンの寄付を受けた。こうして、市民へのワクチン接種を進めてきたのだが、9 月時点における 1 回目の接種を受けたのは人口の 16.47%、2 回目が 12.85%程度に留まっている。

ワクチンが十分に行き渡っていないため、次なる感染拡大への懸念はぬぐい切れない。それでもマイティは、感染予防対策を講じながら、さまざまな活動を行っている。以下、2020 年 10 月から 2021 年 9 月の活動状況についてご報告したい。

【2020 年 10 月から 2021 年 4 月】

〈コロナ関連の活動〉

■コロナ禍による経済悪化に伴い、生活困窮者が急増している。そこでマイティは、2020 年 6 月、貧困家庭の女性と子どもに栄養価の高い食べ物を提供するため、「コミュニティ・キッチン・プロジェクト」を立ち上げた。

プロジェクト開始にあたり、雇用機会の創出を兼ねて、調理補助のスタッフを募集した。そこへ応募してきたのがスナールさん（38 歳）だ。夫を病気で失い、日雇い労働で 2 人の子どもを養育していた。建築現場で石や砂を運ぶ仕事は相当な重労働だが、収入はネパールの最低賃金（月額 14,000 ルピー）にも満たない。食べていくだけで精一杯のところへ、コロナ感染者が急増。2020 年 3 月 22 日から 4 カ月間ロックダウンが続き、職を失った。コックの経験はなかったが、やる気を認めたアヌラダさんが雇用を決めた。感染予防に努めながら、毎日 250 人以上の人々に食事を提供する中、スナールさんは誰よりも積極的に働いた。その頑張りが認められ、やがてプロジェクトの中心人物となった。

その後も月 1 回程度のペースでプロジェクトは継続された。9 月下旬に始まったネパール最大のお祭りダサインには肉料理なども供され、束の間のお祝い気分を味わってもらったとのことである。

食事を提供するために準備された大量の食材

〈保護活動〉

■2015 年に発生したネパール大地震の後、人身売買犯罪が急増した。家や職を失った被災家庭に仕事を紹介すると持ちかけ、多くの少女や女性が犯罪に巻き込まれたのだ。コロナ禍においても同様の現象が認められている。

ネパール政府は、女性の中東への出稼ぎを禁止しているが、斡旋業者が多くの人を送り出している。たどり着いた先で約束どおり仕事が得られることもあるが、経由地のインドで売春宿に売られるケースも少なくない。2020 年 12 月、そうした女性 5 人がハイデラバードの空港で足止めされた。出国手続きの際、必要書類に不審な箇所があったため、事情聴取したところ、斡旋業者にだまされていることが発覚したのだ。ネパール政府のガイドラインに従って本国に送還された彼女たちはマイティに保護され、カウンセリングを受けた後、家族のもとに送り届けられた。

■児童労働問題も深刻化している。ニタさん（14 歳）は、西ネパール・バルディヤのレンガ工場で、児童労働者として違法に働かされていた。継母に虐げられた挙句、仕事を強制されたという。こうした弱い立場に置かれる子どもや女性を守るため、マイティは啓発活動により力を入れている。そのひとつが、毎週水曜日 18 時から放送される「マイティ・コ・サンデーシュ」というラジオ番組の制作だ。被害者の実体験を紹介し、人身取引に巻き込まれないよう注意を促すというものだ。被害者の多くが、「私たちのような目に遭ってほしくない」との思いから、インタビューに協力してくれているという。

〈配給活動〉

■2020 年 9 月 8 日、連日の豪雨により、ヌワコット郡インドラヤニ村で大規模な地滑りが発生した。幸い、亡くなった人はいなかったが、115 世帯が家を失い、2.5 ヘクタールの農地が消失。被災者は長期に渡るテント生活を余儀なくされ、地域復興の目途もたたないままだった。

これを受けてマイティは、国連とともに米、ヒラマメ、塩、食用油、茶、砂糖などの配給を行った。被災者の生活の目途が立つまで活動を継続するとのことである。

被災者支援の様子

〈テレサ・アカデミー〉

■新型コロナウイルスの世界的な蔓延は、人々に公衆衛生上の脅威を与えただけでなく、経済をはじめとするさまざまな面に苦難を突きつけた。教育現場においても同様だ。ユニセフ（国連児童基金）とＥＵ（欧州連合）が共同で発表した声明によれば、都市封鎖のピーク時、休校により世界の学齢期の子どもの 90%以上が学校に通えず、そのうちの 3 分の 1 が教育から完全に切り離された状態だったという。

ネパールも、ロックダウンとともに学校閉鎖が始まった。ほかの途上国に先駆けての措置ではあったが、感染拡大に歯止めが効かず、2020 年 7 月 22 日、ロックダウン自体は解除されたものの、学校再開の目途はなかなか立たなかった。

なかにはインターネット授業を行う学校もあった。しかし、通信インフラが整っていない地域の子どもや、インターネット環境を準備できない貧困家庭の子どもは必然的に対象外となってしまう。それでは学力の差を生むと反対の声があがり、瞬く間に取りやめとなった。私立学校においては、8 月下旬からインターネット授業を再開し、感染者数の少ない農村部の学校などでは授業を始めたが、それ以外の学校は休校が続いた。

マイティは、本部に隣接する形でテレサ・アカデミーという学校を運営している。子どもたちは同じ敷地内で生活しているため、ロックダウン中も自分の教室の椅子に座ること自体は可能だった。しかし、外部からのウイルス侵入を防ぐため、教員やボランティアの立ち入りを禁じていた。よって、高学年の子どもが先生の代わりを務め、課題を与えて自習させるなどの対策を講じた。

ロックダウン解除後は、授業再開に踏み切る。教員に出勤時の検温を義務付け、手指消毒とマスク着用を徹底するなどして感染予防に努めた。

ラリグラスでは、テレサ・アカデミーで学ぶ子どもたちのために、文具購入のための支援を呼びかけさせていただいている。2020 年 10 月～2021 年 9 月にご協力くださった堤田芳和様、ありがとうございました！

【2021 年 5 月から 9 月】

〈コロナ関連の活動〉

■コロナ禍の影響で、日々の糧にも事欠く貧困家庭の女性と子どもに対し、栄養価の高い食べ物を提供するのが「コミュニティ・キッチン・プロジェクト」だ。この 8 月、マイティは UN Women（国連女性機関）の支援を受け、セティ州カイラリおよびモラン州 1 同州 7 のコミュニティに対し、3 回目の「コミュニティ・キッチン・プロジェクト」を実施した。

コミュニティ・キッチン・プロジェクトに力を尽くすマイティのスタッフ。暑い季節だったが、防護服を着用して臨んだ

■隣国インドからもたらされたデルタ株により、ネパールの感染者数は広範囲かつ急速に増加した。この現象に対処するため、マイティは地方自治体や警察署、病院などと連携し、多くの地区において、マスクなどの衛生用品と救援物資を配布した。

マイティと連携しともに活動を行ってくれたのは、グラリヤ地区警察署、バルディアス・メキナガル市、ジャパ・ビルグンジ市営企業、パルサ・マダン・バンダリ保健財団ヘタウダ、マクワンプル・ビーリ病院、ネパールガンジ・イタハリ病棟、スンサリ国境警察ポストマヘシュプル、ヘルスポストナワルパラシなど。今後も惜しみなく活動協力してくれるとのことだ。

多くの地域で行われた救援物資の配布。感染予防のための知識についてもレクチャーされた

■世界的な異常気象が報じられるなか、ネパールにおいても今年の雨期は長雨が続き、豪雨に見舞われた地域も少なくなかった。6 月には、カトマンズから北東約 50km、シンドゥパルチョーク郡メラムチ川の決壊により大規模な地すべりが発生する。下流に位置するヘランブ市の全家屋と農場が浸水被害に遭った。

災害の報を受け、マイティはいち早く被災地支援に乗り出し、食料、衣類、医薬品等の救援物資を提供した。シンドゥパルチョーク郡は、人身売買が盛んな地だ。また、自然災害の発生後、混乱に乗じて犯罪件数が増加するといわれている。物資支援とともに啓発活動を行い、地域ぐるみで少女の身の安全を守るよう訴えた。

近年、毎年のように発生する地滑りや洪水被害。コロナ禍に自然災害が重なり、地域住民の生活は困窮を極めることに

■低所得層や貧困層を多く抱える途上国において、ワクチン接種率が低いという結果が出ている。ネパールも同様で、前述のとおり 9 月時点で 1 回目の接種を受けたのは人口の 16.47％、2 回目が 12.85％程度だ。貧困層は生活に追われているため、ワクチン接種に時間と手間をかける余裕がなく、先送りにするか打たない選択をしてしまうようだ。また、ワクチン接種に関する情報が十分行き渡っていないことも、接種率の低さに起因しているといわれている。

こうした実情を受け、マイティは 8 月 17 日、日雇い労働者、貧困家庭の女性や少女、トランスジェンダーの人々など、行政サービスが十分に行き届いていない層を対象に、アストラゼネカ製のワクチン接種を行った。知識不足から注射を怖がる人もいたようだが、丁寧に説明することで理解を得、計 3,000 人にワクチンを提供することができた。

マイティのクリニックに常駐するナースと、提携する病院のナースがワクチン接種にあたった

〈保護活動〉

■生活苦から、海外に出稼ぎに行く人は後を絶たない。政府の認可を受けた斡旋業者により、正規ルートを通じて送り出されれば問題ないが、悪徳業者に騙されるケースも多く見られる。この春も、仕事を求めてスリランカに渡った 25 人のネパール人女性が、移民規則に違反した容疑で逮捕された。ネパール政府の働きかけによって釈放されることになったが、拘留期間は 14 カ月に及んだ。

強制送還され、6 月 24 日にカトマンズの空港に降り立った女性たちは、PCR 検査を受けた後、ネパール警察の手によってマイティに引き渡された。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、義務づけられていた入国後 7 日間のホテルでの隔離措置は、3 月 18 日から不要となったが、入国後の PCR 検査と結果判明までのホテルでの待機は、引き続き必要となっている。マイティには、結核患者のための隔離病棟はじめ、他者との交流を断つことのできる居室が設けられているため、受け入れを要請されたのである。

幸い 25 人の中に陽性者はなく、早速、健康診断とカウンセリングが施された。家族のもとに帰すまで、啓発教育と職業訓練を継続するとのことである。

これまで、出稼ぎ先といえば、インドや中東諸国が大半だったが、昨今、スリランカも対象国となっている。監視の目が緩く、インド経由ですぐにたどり着けるからだ。今後も同様のケースが見込まれるため、ネパール警察反人身売買局は事件の調査と法的手続きを開始した。マイティもできうる限り捜査に協力するとのことである。

■保護された女性や少女たちには、縫製技術やビーズアクセサリー作り、バッグ作り等、さまざまな職業訓練の機会が提供される。

職業訓練にかかる費用としてご支援くださった皆さま、ありがとうございました！

2020 年 10 月～2021 年 9 月にご寄付くださった方々（敬称略）

阿守優美　伊藤芳樹　上野祥子　上原準
大田多恵　加藤光子　金井京子　國森佳子
佐藤忠志　渋谷修　下田伸子　高橋多美子
堤田芳和　轟木元枝　三橋久子　武藤禎
元田智子　合計 150,000 円

カトマンズの空港に降り立った女性たち。その足でマイティに保護された（上２枚）
悪徳業者を摘発するため、マイティに常駐する女性弁護士が聞き取りを行った

■ネパール・インド間の違法薬物の密輸事件も急増している。コロナ禍による生活苦から、誘われるままに運び役を引き受けてしまう者もいれば、知らないうちに犯罪に巻き込まれてしまう者などさまざまだ。スミナちゃん（11 歳）も、意図せず運び役を担わされそうになった 1 人である。

7 月上旬、スミナちゃんは夜になっても帰ってこなかった。心配した両親が村のあちこちを探したが見つからない。翌日も心当たりのすべてを探し回ったが、発見には至らなかった。父親は、マイティ本部に相談を持ちかけた。スタッフはすぐに警察に行方不明届けを提出し、警察とボーダーガード（国境監視を担うマイティのスタッフ）と協力して捜索にあたった。スミナちゃんが見つかったのは、本格的な捜索開始から 2 日目のこと。家を出てから 5 日が経過していた。場所は、道路を挟んでマイティ本部の向かいにあるパシュパティナート（寺院）の近くのガウリガットという地区。数人の男と一緒にいるところを保護されたという。聞き取りの結果、男たちとはソーシャルメディアを介して知り合い、言葉巧みにおびき出されたとのこと。男たちは、「スミナのような幼い女の子なら、国境警察の監視の目をかいくぐりやすいと思った」と自白した。あと少し発見が遅れていたら、スミナちゃんは国境を越えており、危険な状態に陥っていたかもしれない。

ネパールでは、中国製の安価なスマホが出回っている。料金はプリペイド式で、20 ルピーチャージすればインターネットに 1 時間接続できる。かなりの低価格であるため、子どものお小遣いでもネットの世界へアクセスできてしまうのだ。そのため、ソーシャルメディアを介した犯罪が増加傾向にあり、人身売買犯罪のツールにも使われているのである。

犯罪に巻き込まれかけたスミナちゃん。マイティは、ソーシャルメディアの危険性について警鐘を鳴らしている

〈啓発活動〉

■7 月 30 日は国連が定めた「人身取引反対世界デー」だ。マイティでは毎年、この日を記念して大規模な啓発キャンペーンを実施している。スタッフ、保護する女性たち、警察や法律関係者などと隊列を作り、人身売買廃絶を訴える横断幕を掲げ、地域を練り歩くのが恒例だ。しかし、今年はコロナ禍の中にあるため、マイティ本部と、トランジット・ホームやプリベンション・キャンプなどの関連施設とタイミングを一にして、それぞれの敷地内でプログラムを実施することにした。

「犠牲者の声が未来への道をリードする」をテーマに行われたプログラムでは、横断幕が掲げられ、スローガンが唱和された。警察関係者や行政担当者などの出席者には、活動報告書および活動計画書が配布された。また、マイティ本部においては、人身売買犯罪のターゲットとされるリスクの高い貧しい 40 人の女性に対し、日々の生活のための救援物資と生活資金が提供された。

市民に向けては、意識を高めてもらうため、「人身取引反対世界デー」の 1 週間前から、ソーシャルメディアを通じて啓発メッセージが配信された。

シュプレヒコールをあげるスタッフと女性たち

〈ヘタウダ・プリベンション・キャンプ〉

■プリベンション・キャンプでは、新型コロナウイルス感染拡大により、2 年近く新たな生徒を招聘できていない。だが、やるべきことは山積みだ。ひとつは、生活苦から増加傾向にある人身売買犯罪の抑止活動である。

7 月 31 日、ヘタウダ・プリベンション・キャンプは、地域の女性を対象に啓発オリエンテーションを行った。これまでにも定期的に行っているものだが、今回は若い男性を対象とした法的オリエンテーションも別途行った。少女や女性がどのような手口で売買されているか、ブローカーの接触をどのように回避すべきか、地域の少女と女性を守るための方法、法制度や法律に関する基本知識など、人身売買のさまざまな側面についてレクチャーしたのだ。若い男性を対象としたのは、ブローカーの巧みなアプローチにより、連れ去り役を担わされる可能性が高いからだ。目先の利益に惑わされることなく、地域の少女と女性を率先して守ってほしいものである。

地域の女性を対象とした啓発オリエンテーション

■インドとの国境に近接するヘタウダは、感染拡大のリスクが極めて高い。そこで、プリベンション・キャンプは、地元の民間団体と協同し、マスク着用の必要性を訴えるなど、感染予防の意識を高めるために、バスターミナルにヘルプデスクを開設した。

バスターミナルを起点に、毎日多くのインドとカトマンズ、その他の地域を結ぶバスが発着している。ウイルスは人によって運ばれるため、バス内の感染予防は極めて重要だ。そのため、ヘタウダを含むマクワンプル地区の新型コロナウイルス危機管理委員会がヘルプデスクの設置について決定を下し、要請を受けたプリベンション・キャンプが実施する運びとなった。

バスの乗客にマスクを配布するプリベンション・キャンプのスタッフ。マスクを着用していない人は驚くほど多いそうだ

■プリベンション・キャンプが管轄する地域は広範囲に及び、基本的インフラ整備が不十分な地も少なくない。こうした地域に暮らす人々の生活は平時であっても厳しいものだが、2 年近くに及ぶコロナ禍の中で、さらなる困窮生活を強いられている。マスクどころか今日の食事にさえ事欠く状況なのだ。

そこでプリベンション・キャンプは、パルサ・マダン・バンダリ保健財団ヘタウダ、マクワンプル・ビーリ病院の協力を得、マスクなどの衛生用品と救援物資を配布した。

支援物資を配布するプリベンション・キャンプ

■前述のとおり、新型コロナウイルス感染拡大により、2 年近く新たな生徒を招聘できていない状況にあった。

しかしながら、最近、感染者数が落ち着いてきたため、10 月末から 20 名の生徒を対象に、職業訓練を再開する予定とのことだ。

テーラー開業資金プロジェクトにご協力くださった皆さま、ありがとうございました！

2020 年 10 月～2021 年 9 月にご寄付くださった方々（敬称略）

伊藤芳樹	上野祥子	上原準	大田多恵
加藤光子	金井京子	國森佳子	渋谷修
瀬谷直子	田邉浩一	堤田芳和	藤田一彦
松永一夫	三橋久子	武藤禎	吉田茂

合計　255,000 円

〈トランジット・ホーム〉

■感染予防と人身売買犯罪防止への意識を高め、1 人ひとりに安全対策を講じてもらうため、国内 14 カ所で運営されるトランジット・ホームが、「ラジオ・ジングル」というラジオ放送を行った。断続的に行われたロックダウンにより、マイティのスタッフは人身売買や性的搾取の被害者のもとへ直接訪問することが十分にはできていない。よって、ラジオに乗せてホットライン番号を案内し、トラブルに巻き込まれた際は速やかに連絡するよう呼びかけたのだ。一報があれば、すぐに救いの手を差し伸べる準備はできている。コロナ禍の中にあっても、工夫を凝らし、精一杯の活動を続けてくれている。

国内すべてのトランジット・ホームを起点に、全国的に放送されている「ラジオ・ジングル」

〈ホスピス〉

■平時においても閉鎖的な環境下にあるホスピスだが、新型コロナウイルスの感染拡大以降は、さらに人の出入りが制限されることになった。厳格な感染予防対策によって、陽性者は 1 人も出ていないのは幸いだが、退屈で淋しい毎日を送っているようである。

マイティ本部の許可を得、長年、活動に協力してくれているラジェンドラ・サッキャさんにホスピスを訪問してもらった。今回もサッキャさんのご家族にお菓子のパッキングをお願いし、届けてもらったのだ。久しぶりの訪問に、ホスピスの女性たちは歓喜したという。また、「どこにも行けず退屈」、「日本の皆さんはいつ来てくれるのですか？」との声があがったそうだ。

生活状況を聞き取ると、敷地内に畑を作り、野菜を育てているという。身体を動かし、収穫の喜びを味わえることから始めたそうだ。また、週に 2 回は肉料理を食べているとのことである。食べることぐらいしか楽しみがない状況が切なかったというサッキャさん。「もう一度、訪問の許可を得て、今度は魚を持って行くつもりです」とのメールをくれた。私たちも同じ想いだ。肉や魚、果物やお菓子をたくさん抱え、彼女たちのもとを訪問する日が 1 日でも早く来ることを願ってやまない。

サッキャさん家族の協力のもと、お菓子詰め合わせをプレゼント

庭をどんどん耕し、ずいぶん畑面積が広がった。唐辛子はじめ、季節の野菜を育てているという

みんな、健康状態は安定しているとのこと

〈お菓子詰め合わせプレゼント〉

■前述のとおり、サッキャさんのご家族に協力いただき、マイティと NDWS の女性と子どもたちにお菓子の詰め合わせを配布した。私たちは現地に赴くことはできないが、ラリグラス関係者の皆さまのお気持ちは、お菓子を介してしっかり届いている。お菓子詰め合わせプレゼント企画にご協力くださった皆さま、ありがとうございました！

2020 年 10 月～2021 年 9 月にご寄付くださった方々（敬称略）

伊藤芳樹　上田朋子　上野祥子　上原準
小野浩司　春日恵　加藤光子　金井京子
國森佳子　小手川弘子　渋谷修　竹林早苗
田邉浩一　堤田芳和　土居裕見子　平井英津子
丸山竹士郎　三橋久子　武藤禎

合計 149,000 円

おいしいものを作って食べることが一番の楽しみ

とっても喜んでくれました！

久しぶりのお菓子に大興奮！

〈ピクニック〉

■10 月 9 日、サッキャさんに手配をお願いし、ホスピスの女性と子どものためにピクニックを催した。といっても、コロナ禍の中の外出はリスクが高いため、ホスピスの敷地内でピクニック気分を味わってもらうことにした。

当日は、学業を優先するためマイティ本部の寮で暮らす子どもたちも参加した。SLC を終え、マイティを退所した子どもたちにも足を運んでほしかったが、感染リスクを考慮し、今回は見送らざるをえなかった。

ホスピスで育った子どもたちにとって、ホスピスは実家のようなものだ。久しぶりの里帰りにリラックスした様子だったという。女性たちも子どもたちとの再会にとても喜んでいたとのことだ。

9 月下旬から始まるネパール最大のお祭りダサインのために、女性には新しいクルタを、子どもたちには洋服をプレゼント。こちらも大いに喜んでもらえた。ご協力くださった皆さま、ありがとうございました！

2020 年 10 月～2021 年 9 月にご寄付くださった方々（敬称略）

伊藤芳樹　上野祥子　上原準　加藤光子
金井京子　國森佳子　小手川弘子　渋谷修
堤田芳和　三橋久子　武藤禎

合計 94,000 円

■大半のホスピスの女性は、重度の精神疾患を抱えている。長期にわたる売春宿での強制労働やレイプなど、発症の原因の多くは性被害だ。

彼女たちは、コロナ禍にある現状をあまり理解できていない。そのため、ラジャさんは何度も「手品はやらないのですか？」、「アンティたちはなぜ来ないのですか？」、「今度はいつ来るのですか？」と聞かれたという。

ホスピスには、もともと来訪者が少ない。新型コロナウイルス蔓延後は、さらに人の足が遠のいた。マイティ本部のスタッフが、食材や医薬品を届けに来るぐらいしか出入りがなかったのだ。ウイルスを持ち込まないための配慮ではあるが、どれほど人恋しい思いをしていることだろう。

近い将来、新型コロナウイルスが収束し、現地に赴き、みんなで本物のピクニックに出かけられることを心から願っている。

肉や果物などの食材を持ち込み、みんなで調理。メニューはフライドチキン、プラオ、パコラ、野菜カレーなど

みんな食欲旺盛。モリモリ食べたとのこと

大所帯のマイティ本部の寮では、手間のかかるフライドチキンやプラオなどは供されない。
子どもたちもお腹いっぱい食べました！

久しぶりに会った子どもたちに、女性たちは「大きくなったね」と目を細め、幼い頃の思い出を聞かせていたという

ダンスで大盛り上がり！この日を心待ちにしていた女性たち。めいっぱいおしゃれしていたそうだ

ちょうどネパール最大のお祭りダサインの真っただ中。お祝いにクルタをプレゼントした

レスキュー・ファンデーション

〈コロナ禍の現状〉　【2020 年 9 月から 2021 年 4 月】

今年 4 月、ブラジルを抜き、世界第 2 位の感染者数を記録することとなったインド。5 月には、1 日の新規感染者数が 40 万人を超え、死者数も連日 4,000 人超、第 2 波を迎えたとされた。このまま危機的状況が続くのではと案じられたが、徐々に新規感染者数は減り続け、10 月 4 日現在、新規感染者は 24,354 人に。ピーク時に比べると、15 分の 1 程度まで減少している。しかも、インド由来のデルタ株の感染拡大によって、世界全体の感染率は今も高い状態にあるが、インドにおいては以前のようなパンデミックは起きていない。日本でも報道されたように、インドの国民に集団免疫ができたとの説もあるが、やはりワクチン接種が進んだことが一番の理由といわれている。

「Our World in Data」によれば、9 月上旬時点で、2 回目のワクチン接種を済ませた人が 1 割強にとどまる中、急ピッチで接種を進め、8 月下旬には 1 日当たり 1,000 万回を超える接種回数を記録した。こうした政府の積極的な対応により、今年 5 月に見られた爆発的な感染状況が落ち着いたといわれている。しかしながら、インドの医療関係者は「多くの子どもたちがワクチン未接種の状態にあるため、第 3 波の到来も考えられる」とし、「感染者が急激な増加傾向を見せれば、再びロックダウンが発令される可能性もある」と危惧しているのである。現在のインドでは、再び感染爆発を起こさないための、さまざまな取り組みが行われている。教育現場ではオンライン・スクールが一般化し、食材や料理のデリバリーが増えるなど、外出不要の生活スタイルが成り立ちつつある。

だが、こうした便利なシステムを享受できるのは、都市部の中産階級以上の人々に限られたことだ。農村部に暮らす人々やスラム街の低所得者層は、これまでどおりの環境で生活しなくてはならず、そこに感染リスクがあるといわれているのである。

レスキュー・ファンデーション（RF）の活動エリアは、ハイリスクといわれる赤線地帯だ。それでもスタッフは、感染予防対策を講じながら、精力的な活動を続けてくれている。以下、2020 年 10 月から 2021 年 9 月までの活動状況についてご報告したい。

〈救出活動〉

■2020 年 9 月にピークを迎えた新型コロナウイルスの感染者。その後、新規感染者数は減少傾向に転じたのだが、2021 年 3 月に入ってから再び感染が拡大する。4 月 4 日発表の新規感染者は 93,000 人を超え、第 2 波の到来と報じられた。

とりわけ、RF が本部を置くムンバイがある西部マハラシュトラ州の感染状況が深刻で、インド全土の新規感染者の過半数を占める状態だった。そのため、4 月 5 日から同州では夜間の外出制限など、厳格な行動規制が始まった。

■コロナ問題に加え、頭の痛い問題が起こっている。インドでは、2009 年から Aadhaar（アダル。基礎の意）という国民 ID システムが導入され、これまでに 12.3 億人以上が登録を終えた。公共福祉サービスの効率的な提供や、不正行為の防止などが導入の目的だが、赤線地帯においてこのシステムが悪用されているという。

登録を終えた国民には、アダル・カナルという ID カードが発行される。これを偽造し、売春宿で働く女の子たちに所持させているというのだ。

売春宿の摘発時、マイナー（18 歳未満の未成年）であれば、本人の意思にかかわらず救出することができる。だが、メジャー（18 歳以上の成人）の場合、「自分の意志で働いている」と本人がいえば、無理に救い出すことはできない。そこで売春宿側は、マイナーの女の子たちに、年齢を 18 歳以上とした偽造カードを持たせ、摘発の際、「自分の意志で働いている」と証言させているのである。

近年、マイナーの割合は増加傾向にあり、10 代前半の女の子が大半を占める店も少なくない。1 日も早い救出が望まれるが、偽造カードが RF の活動を阻んでいるのである。

■これらの悪条件の中にあっても、RF は精力的に救出活動を続けている。3 月中にムンバイで 2 回行い、1 回目は 10 名の少女を救い出し、売春宿関係者 7 名を逮捕。2 回目は 20 名を救出し、3 名を逮捕した。

救出活動は、RF のプネー事務所とデリー事務所でも行われており、いずれも大きな成果を上げている。コロナ感染のリスクを負いながら活動に取り組むスタッフたち。その功績が評価され、国際

婦人デーの際、女性と子ども開発省より表彰された。

厳しい条件下で救出活動を行うスタッフたち

〈職業訓練〉

■RF の活動は、インド国内で徐々に認知されてきており、さまざまな形で支援の申し出があるという。例えば、食品卸業者からは、米や小麦粉、豆などが定期的に寄付されており、製菓会社は女の子たちにチョコレート作りを指導してくれたそうだ。閉塞感漂う昨今、大好きなお菓子を自分の手で作ることができ、一大イベントになったとのことである。

多くの女性と少女を保護する RF にとって、食料支援は非常にありがたい

チョコレート作りの講義を受ける女の子たち

〈緊急支援〉

■2 月下旬、RF から緊急支援の要請があった。これまで、ムンバイの本部とシェルターの年間運営費をサポートしていたオランダの NGO から、支援の一時中止の申し出があったからだ。コロナ禍の影響による団体の資金難が理由である。

ムンバイのシェルターには、常時 100 人前後の被害者が保護されている。その 1 人ひとりに衣食と医療ケアを提供し、基礎教育や職業訓練を行っているのだが、これらにかかる費用が捻出できなくなった。そのためラリグラスは、「コロナ緊急支援」として 150 万円の緊急支援を決定した。

【2021 年 5 月から 9 月】

〈コロナ関連の活動〉

■この 8 月、RF への支援を続けてくれている現地団体「クラブ・カンディバリ・ウェスタン・エクスプレス」と連携し、ボイサルのシェルターにおいて、同シェルターとムンバイ本部のシェルターに保護される女性と少女全員とスタッフ 49 名にワクチン接種を行った。

なかなかワクチン接種の機会を得られず、売春宿から救出した被害者を保護する際、一定期間の隔離措置を取らなければならなかった。そのため、早い段階から十分なリハビリを施せないことが課題となっていたが、ワクチン接種によって感染リスクが低下したことで、これまでどおりのリハビリ・プログラムを提供できるようになったとのことだ。

待ちに待ったワクチン接種を受けるスタッフ

デリー・シェルターでは医師を招き、感染予防対策のレクチャーを行った

■ボイサルのシェルターは、農村地帯の中にある。自然豊かで周辺には自給自足のための田畑もある。心身に深い傷を負った女性や少女たちにとって望ましい環境だが、この地に暮らす人々は貧困層が多数派を占める。土地を持たず、地主の田畑を耕すことでギリギリ生計を立てているのだ。日雇いで道路工事や建築現場で働く人も多い。

コロナ禍によって、インド経済は大打撃を受け、貧しい人はさらなる困窮生活を強いられている。そのため RF は、ボイサルのシェルター近くの生活困窮者を対象に、食料や日用品、医薬品などの支援物資を配給した。

米や小麦粉、豆等、保存の効く食料や、マスクなどの衛生用品を配布

〈救出活動〉

RF がもっとも求められる活動のひとつが、売春宿から被害者を救い出すミッションだ。新型コロナウイルス感染拡大によって行動が制約されがちだが、感染予防に努めながら確実に成果を上げてくれている。例えば、8 月には 5 回のレスキュー活動を実行し、18 人の被害者を救出。売春宿の経営者をはじめとする 5 人を逮捕した。9 月には 10 回のレスキュー活動を行い、35 人の被害者を救出、13 人の逮捕。2021 年 1 月～9 月までに 400 人以上の女性と少女を救い出した。レスキュー・スタッフいわく、このペースで活動を続ければ、年末までに救出者は 500 人に達する見込みとのことである。

今年 RF は、働かされる子どもたちにも救出活動の範囲を広げた。新型コロナウイルス感染の感

染者数が爆発的な増加を見せた昨年 3 月、インド政府は全土的なロックダウンに踏み切った。結果、経済が打撃を受け、子どもを養えない貧困家庭が急増。多くの子どもが学校を辞め、家計を支えるために農場や工場などで働かざるを得なくなった。こうした状況下、劣悪な労働条件のもとで働かされている子どもたちを救出し、教育の機会を提供することに。2021 年 1 月～9 月までの間に保護した子どもの数は 170 人を超えた。

定期的に売春宿を摘発し、着実に成果を上げている

劣悪な環境下で働かされている子どもの救出にも力を注いでいる

〈EKATRA プロジェクト〉

児童労働の被害者の救出活動など、新たなプロジェクトへの取り組みを始めた RF。新設されたデリー・シェルターも、100 人を超える女性と子どもたちを保護する規模となった。

そこで問題となっているのが活動資金である。前述したとおり、これまで、ムンバイの本部とシェルターの年間運営費をサポートしていたオランダの NGO から、コロナ禍の影響による団体の資金難を理由に、支援の一時中止の申し出があった。ムンバイのシェルターには、常時 100 人前後の被害者が保護されている。その 1 人ひとりに衣食と医療ケアを提供し、基礎教育や職業訓練を行っているのだが、これらにかかる費用を賄えなくなったのだ。報告を受け、ラリグラスは、「コロナ緊急支援」として 150 万円の追加支援を行ったが、その後もいくつかの海外ドナーが支援を停止し、深刻な資金難が続いているという。保護する女性や子どもたちは増える一方だが、その数に見合ったスタッフを雇用することができないでいるのだ。

こうした実情の中、RF は新たに EKATRA というプロジェクトを立ち上げた。きっかけは、昨年 3 月のロックダウンにある。移動を禁止されたため、職業訓練や基礎教育を担当する講師はシェルターに通うことができなくなった。それでもトレーニングは継続しなくてはならない。そこで、スキルの高い数人の女の子にトレーナー役を担ってもらうことにしたのである。

これが、予想以上の成果を見せた。教える側も教わる側も非常に熱心に訓練に取り組んでくれたのだ。そこで、この 9 月、正式なプロジェクト「EKATRA」として立ち上げることにしたのである。

スキルが高く、リーダーの資質をもつ女の子をトレーニングし、「リーダー」もしくは「トレーナー」に育てる。そのトレーナーが、シェルターの女の子たちを指導するという仕組みだ。もちろん無償ではなく、RF はトレーナーに給与を支払う。人件費を抑えられるうえに、ふたたびロックダウンが発令されたとしても、トレーニングを継続することができる。雇用創出とエンパワーメントを目的とした持続可能なプロジェクトなのだ。

第一段階として、7 人のトレーナーが選抜された。つい先日、リーダー研修が終わり、指導者としての活動を始めたところだそうだ。アクセサリー作り、縫製技術、コンピューター トレーニング、基礎英語、美容技術、バッグ作り、ズンバの指導を担っているとのことである。

縫製技術のトレーニング

バッグ作りのトレーニング

〈ブライダル・プロジェクト〉

■救出した被害者に対し、インドのカリキュラムに準じた学校教育や職業訓練など、さまざまな教育の機会を提供している。とくに後者は実践的で、バッグやアクセサリーの制作技術は、十分、市場に通用するレベルのものだ。マーケットに卸し、賃金を得ている女性も少なくない。施設を出た後の生活費に充てられるよう各々の口座を開設し、貯金しているとのことである。

こうして社会復帰を後押しするわけだが、大半の女性が望むのは自立よりも結婚だ。インド社会において女性ひとりで生きることは極めて難しく、安全を確保するためにも新たな家族をもつことが必要なのである。

以上の社会背景をもとにブライダル・プロジェクトを立ち上げ、これまでに多くのカップルが誕生した。ところがこの２年、新たな縁組は行われていない。いうまでもなく、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大によって、さまざまな社会活動が制限されていたからだ。

現在は、ロックダウンも解け、かつての日常に戻りつつある。だが、気を抜けばまたもや感染の大きな波が到来する可能性は否めない。

伴侶との新たな生活を夢見る女性たちのために、できるだけ早くプロジェクトを再開したいと話す代表・トリベニさん。諸状況を鑑みてのことだが、来年にはリスタートが叶いそうとのことである。

2020 年 10 月～2021 年 9 月において、次の方々にブライダル基金へご協力いただき、合計 166,000 円を募ることができました。この場をお借りして深謝申し上げます。

しかしながらこの２年、縁組がなされていないため、寄付金はプールさせていただいております。次の縁組が成立した際、挙式にかかる費用に充てる予定です。何卒、ご理解いただけますようお願いいたします。

伊藤芳樹	上野祥子	上原準	大田多恵
加藤光子	金井京子	國森佳子	小手川弘子
小林のぶ江	渋谷修	田邉浩一	堤田芳和
手島綾	松永一夫	三橋久子	武藤禎
元田智子			（敬称略）

ネパール障がい者女性協会（NDWS）

【NDWS の概要と支援の経過報告】

ネパール障がい者女性協会（Nepal Disabled Women Society：以下 NDWS）は、1994 年、障がいをもつ女性たちが中心となって立ち上げた組織で、カトマンズ盆地内にあるラリトプール郡ゴダワリ地域で活動を行っている。設立当初は、対象地域の障がいをもつ女性たちへの職業訓練などを行っていたが、現在は同地域の障がいをもつ子どもたちに焦点を当て、教育・リハビリテーション・アウェアネス活動などのプログラムを実施している。

NDWS の主な活動は以下の 3 つに大きく分けられる。

1．障がい児・その保護者に対するセミナーや研修会の実施
2．CBR プログラム（地域中心型リハビリテーション・プログラム）の実施
3．デイケアセンターの運営

【コロナによる影響と NDWS の活動状況】

コロナの影響で、引き続きデイケアセンターは一時閉鎖中で、障がいのある子どもは家庭で過ごすことを余儀なくされている。

デイケアセンターの活動ができなくなったため、NDWS は、市町村と協力して、各村に住む障がい児・者に障がい者カードの発行および歩行の際に必要な補装具や車いすでも使用できるトイレ、歩行器などの配布を行っている。今年度は、以下の村において配布を行った。いずれも、中心地から離れた地域であり、支援が行き届いていない。

村名	対象人数	配布した支援機器
Bagmati	15 名	松葉づえ、歩行器、車いす、移動できる簡易トイレ、毛布や食料など
Dukuchhap	6 名	
Chhampi	8 名	
Devichour	5 名	
Chapagaum	7 名	
Thaiba	9 名	
Lele	10 名	

配布式には村長や障がいを担当する行政組織である女性開発課の担当者などが出席し、村での一大イベントとして執り行われた。Bagmati 村では、配布の際、参加者から障がい児・者の社会参加やリハビリなどの面で支援をしてほしいという要望があったため、村役場とも協議のうえ、CBR プログラムを開始予定である。

配布の様子。NDWS のスタッフが使用方法をレクチャー

配布の様子。村長から支援品を受け取る視覚障がいの子ども

また、1 月には NDWS の代表の改選があった。設立者でもあるリタ・サッキャ氏が長年代表を務めてきたが、今回任期満了により、こちらも設立者の 1 人であるビリンダ・ラクシュミ氏が代表となった。リタ氏も引き続き理事メンバーとして NDWS の活動に携わる。

●マヘンドラ君の事例

ここ最近のレポートでご報告しているマヘンドラ君の近況であるが、健康状態が芳しくない。マヘンドラ君は、NDWS が長年支援しており、足に障がいがある。手術を経て学校にも通い、手に職をつけるために携帯電話の修理の職業訓練を受けようとしていたところ、腎不全となってしまい、透析を余儀なくされた。決して安くはない透析費用と薬代を支援してくださる支援者が見つかり、コロナ禍でも何とか週 3 回の透析に通っていたが、透析の機械をつなぐために体に付けているシャントが細菌感染してしまい、別のところに付け替える手術を行った。ところが、そこも細菌感染してしまい、マヘンドラ君の体中に影響を及ぼしていた。以前は歩けていたが、歩いたり座ったりすることもおぼつかないほどに弱ってしまい、透析を受けるために家族はバイクの後ろに紐でくくりつけて連れて行っていた。また、小さな傷でも治りが遅く、すぐに化膿してしまい、家族は高額な医療費を賄えずにいた。

NDWS、支援者の方とも相談し、シャントの付け替え手術と、化膿した傷の手当を行うことになった。長引くコロナの影響でなかなか会いに行くことができないが、来年こそは元気になったマヘンドラ君と再会したい。

透析を受けるマヘンドラ君

イベント・その他の活動（2020年10月～2021年9月）

【印刷・封入作業】

2020 年 11 月 29 日（日）に飯田橋の東京ボランティア・市民活動センターにてレポート印刷・製本・封入作業を行った。また、2021 年 6 月 13 日（日）にはニュースレターの封入作業を行った。新型コロナウイルス感染症の流行により、両日とも当会理事スタッフのみで作業を行った。

【委託販売】

ラリグラス・ジャパンでは全国各地にお住まいの皆さまに、マイティ・ネパールのホスピスやレスキュー・ファンデーションで作られた商品などを、委託販売という形でご協力をいただいている。2020 年 10 月～2021 年 9 月に委託販売をしてくださった方々は次の通りだ。

2018 年のスタディツアーにご参加くださった倉田春香さまは、9 月 20 日に開催された NPO 法人 Bonds of Heart のイベントで『少女売買』を販売してくださり、イベントの売り上げの一部をご寄付いただいた。

皆さまのご協力に、心より感謝申し上げたい。

ラリグラス・ジャパンでは、マイティ・ネパールのホスピスで暮らす女性たちやレスキュー・ファンデーションの女性たちが作ったフェアトレード商品およびネパール雑貨を販売していただける方を募集している。新型コロナウイルス感染拡大によりイベントの開催自体が困難な状況が続いたが、状況が落ち着いた際には、皆さまのご協力をぜひお願いしたいと思う。

【委託販売ご協力のお願い】

◎ 委託販売の流れ

委託販売のお問い合わせ
↓
販売見込みに応じたビーズ製品と
ネパール雑貨の送付（当会より）
↓
販売
↓
売上のご報告とご入金
↓
不良品／売れ残り商品のご返送

◎ 価格や売上金について

販売価格は当会のイベント時の価格でお願いしています（価格がお客さま層と合わない場合等はご相談ください）。

送品・返品にかかる送料、ご入金の際にかかる手数料は当会が負担いたしますが、売上は全額当会にご入金願います。

またご希望の方には当会のパンフレット、ミニパネルを同梱させていただきます。

他にもご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。

皆さまのご協力、心よりお待ちしております。

2020年度　活動計算書(報告書)

2020年04月01日～2021年03月31日(配賦)

特定非営利活動法人　ラリグラス・ジャパン　特定非営利活動に係る事業の会計

(円)

科目		金額		
1.経常増減の部				
(1)経常収益				
受取会費				
	正会員受取会費	260,000		
	賛助会員受取会費 －里親賛助会費(教育)	340,000		
	－里親賛助会費(教育＆生活)	396,000		
	－一般賛助会費	252,000		
	－学生賛助会費	6,000		
受取会費計			1,254,000	
受取寄付金				
	受取寄付金 －一般	3,859,392		
	－ブライダル基金	192,000		
	－洋服	36,000		
	－お菓子	125,000		
	－職業訓練	122,000		
	－文房具	80,000		
	－テーラー開業支援	142,000		
	－コロナ対策	239,000		
	－その他	10,000		
受取寄付金計			4,805,392	
その他収益				
	受取利息	51		
その他収益計			51	
経常収益合計				6,059,443
(2)経常費用				
事業費				
【その他費用】				
	マイティ本部運営費(寄付金支出)	72,000		
	ホスピス運営費(寄付金支出)	618,000		
	エンパワメント支援費(寄付金支出)	230,000		
	NDWS運営費(寄付金支出)	1,600,000		
	RF運営費(寄付金支出)	3,000,000		
	ブライダル支援費(寄付金支出)	500,000		
	テーラー開業支援	230,000		
	お菓子	45,000		
	職業訓練	60,000		
	文房具	10,000		
	アーシャネパール運営費	72,000		
	コロナ対策支援	1,773,000		
	寄付物品	69,200		
	食費	4,000		
	調査活動費	300,000		
	通信運搬費	29,559		
	宿泊費	14,908		
	旅費交通費	194,794		
	ウエブサイト運営	15,180		
	事務用品費	11,042		
	印刷製本費	4,760		
	送金手数料	67,550		
	雑費	6,000		
【その他費用計】			8,926,993	
事業費計			8,926,993	
管理費				
【その他費用】				

2020年度　活動計算書(報告書)

2020年04月01日～2021年03月31日(配賦)

特定非営利活動法人　ラリグラス・ジャパン　特定非営利活動に係る事業の会計

(円)

	科目	金　額		
	通信運搬費	36,998		
	会議費	8,140		
	旅費交通費	840		
	事務用品費	16,453		
	N-Books会計ソフト使用料	11,000		
	印刷製本費	603		
	為替手数料	146		
	送金手数料	3,080		
	為替差損	19,756		
	雑費	678		
【その他費用計】			97,694	
管理費計			97,694	
経常費用合計				9,024,687
当期経常増減額				-2,965,244
2.経常外増減の部				
(1)経常外収益				
	過年度損益修正益	-22,653		
経常外収益合計				-22,653
(2)経常外費用				
	過年度損益修正損	-3,998		
経常外費用合計				-3,998
当期経常外増減額				-18,655
税引前当期正味財産増減額				-2,983,899
当期正味財産増減額				-2,983,899
正味財産期首残高				14,110,587
正味財産期末残高				11,126,688

様式第16号(法第28条関係)

2020年度　計算書類の注記

特定非営利活動法人 ラリグラス・ジャパン

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、N-Books(ネット帳簿) によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法　棚卸資産無し

(2) 固定資産の減価償却の方法　固定資産無し

(3) 引当金の計上基準　退職給付引当金　無し

(4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理　無し

(5) 消費税等の会計処理　無し

2. 事業別損益の状況

(単位:円)

科目	国内事業	海外支援事業	事業	事業部門計	管理部門	合計
Ⅰ 経常収益						
1. 受取会費	1,254,000	0		1,254,000	0	1,254,000
2. 受取寄附金	4,805,392	0		4,805,392	0	4,805,392
3. 受取助成金等	0	0		0	0	0
4. 事業収益	0	0		0	0	0
5. その他収益	51	0		51	0	51
経常収益計	6,059,443	0		6,059,443		6,059,443
Ⅱ 経常費用						
(1) 人件費	0	0		0	0	0
給料手当	0	0		0	0	0
退職給付費用	0	0		0	0	0
福利厚生費	0	0		0	0	0
.....						
人件費計	0	0		0	0	0
(2) その他経費						
会議費	0	0		0	8,140	8,140
旅費交通費	194,794	0		194,794	840	195,634
通信運搬費	29,559	0		29,559	36,998	66,557
印刷製本費	4,760	0		4,760	603	5,363
スタディツアー	0	0		0	0	0
現地調査	0	314,908		314,908	0	314,908
イベント出展費	0	0		0	0	0
書籍購入	0	0		0	0	0
ウエブサイト	15,180	0		15,180	11,000	26,180
消耗品	0	0		0	0	0
事務用品	11,042	0		11,042	16,453	27,495
送金手数料	840	66,710		67,550	3,080	70,630
為替手数料					146	146
為替差益	0	0		0	19,756	19,756
施設等評価費用	0	0		0	0	0
減価償却費	0	0		0	0	0
寄付金支出	0	8,283,200		8,283,200		8,283,200
その他	6,000	0		6,000	678	6,678
その他経費計	262,175	8,664,818		8,926,993	97,694	9,024,687
経常費用計	262,175	8,664,818		8,926,993	97,694	9,024,687
当期経常増減額						-2,965,244
過年度損益修正益						
過年度損益修正損						
経常外増減額						0

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

内容	金額	算定方法

4. 使途等が制約された寄附金等の内訳

使途等が制約された寄附金等の内訳(正味財産の増減及び残高の状況)は以下の通りです。
当法人の正味財産は9,626,672円ですが、そのうち-1,694,808円は、下記のように使途が特定されています。
したがって使途が制約されていない正味財産は11,321,480円です。

(単位:円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
ブライダル基金	-775,447	192,000	500,000	-1,083,447	
子供服	51,742	36,000	0	87,742	
お菓子	29,449	125,000	45,000	109,449	
職業訓練	396,800	122,000	60,000	458,800	
文房具	-10,000	80,000	10,000	60,000	
コロナ支援	0	239,000	1,773,000	-1,534,000	
テーラー開業支援	-1,207,200	142,000	230,000	-1,295,200	
合計	-1,514,656	936,000	2,618,000	-3,196,656	

5. 固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	減少	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産	0	0	0	0	0
車両運搬具					
什器備品					
.....					
無形固定資産	0	0	0	0	0
.....					
投資その他の資産	0	0	0	0	0
敷金					
.....					
合計	0	0	0	0	0

6. 借入金の増減内訳

科目	期首残高	当期借入	当期返済
	0	0	0
合計	0	0	0

7. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位:円)

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
(活動計算書)	0	0
活動計算書計	0	0
(貸借対照表)	0	0
貸借対照表計	0	0

8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・事業費と管理費の按分方法
国内事業に係わる管理費用は国内事業に計上。それ以外は管理費に計上

・その他の事業に係る資産の状況
その他の事業はありません

2020年度　貸借対照表　（2021年3月31日現在）

特定非営利活動法人　ラリグラス・ジャパン　　特定非営利活動に係る事業の会計

（円）

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金	267,467	流動負債合計	0
現金(外貨)	3,117,035	固定負債	
普通預金	7,742,186	固定負債合計	0
流動資産合計	11,126,688	負債合計	0
固定資産		正味財産の部	
固定資産合計	0	正味財産期首残高	14,110,587
		当期正味財産増減額	-2,983,899
		正味財産合計	11,126,688
資産合計	11,126,688	負債及び正味財産合計	11,126,688

2020年度　特定非営利活動に係る事業の会計　財産目録

2021年3月31日現在

特定非営利活動法人　ラリグラス・ジャパン

（円）

科　目	摘　要	金　額		
資産の部				
流動資産				
現金		267,467		
現金(外貨)		3,117,035		
普通預金		7,742,186		
流動資産合計			11,126,688	
固定資産				
固定資産合計			0	
資産合計				11,126,688
負債の部				
流動負債				
流動負債合計			0	
固定負債				
固定負債合計			0	
負債合計				0
正味財産合計				11,126,688

監査報告書

監　査　報　告　書

令和 3 年 5 月 18 日

特定非営利活動法人
ラリグラス・ジャパン
代表　長谷川 まり子 殿

会計監査　門垣 裕子 ㊞

令和２年４月１日から令和３年３月３１日までの貸借対照表、収支計算書、および付属する書類を監査した結果、正確であると認めます。

以上

2021年度事業計画

１．海外事業活動

(1) マイティ・ネパール

・テーラー開業支援

・フェアトレード・ビーズ製品の購入と技術指導

・エンパワーメント支援

・ホスピス、ヘタウダ施設運営支援

(2) レスキュー・ファンデーション

・シェルター、リカバリー・ケア・センター運営支援

・ブライダル支援

(3) NDWS

・デイケアセンター運営支援

(4) スタディツアー検討

※2021 年度は中止。夏以降、状況が好転していれば、長谷川が調査に赴く予定。

(5) 商品仕入れ検討

※夏以降、長谷川が現地調査に行ければ仕入れ可能。無理な場合は、在庫分で対応。

２．国内活動

(1) 広報活動

・ホームページ運営

・報告書・パンフレット印刷

・SNS サイト運営

・書籍販売

・Facebook 広報の活用

(2) イベントの参加とフェアトレード商品の販売

・グローバル・フェスタ参加、ほか

(3) 委託販売

(4) 財政基盤の強化

・会員・里親会員の継続会員のフォローと新規会員の拡大推進

・寄付・募金活動の実施

・助成金申請の積極推進

(5) プロジェクト活動

・ビーズ製品新デザインの検討

・現地からの報告書などの文書翻訳（英文→和文）や（和文→英文）など

(6) 勉強会・講演会の開催

・ラリグラス・ジャパンの活動や現地 NGO の現状、ネパール・インドの社会状況などについて理解してもらうことを目的とし、勉強会・講演会を開催。

※コロナの状況を鑑みて ZOOM を活用し、報告会を開催する。

以上

会員・寄付者リスト

（敬称略）

【会員】

2020 年 10 月から 2021 年 9 月の間に会員（継続も含む）になってくださった皆さまのお名前

《正会員》

秋山佳子　石川重美　上原翔子　門垣裕子　亀尾麻彩子　渋谷真理子　下窄あゆみ
須賀香奈　高橋国和　高橋奈美江　高柳ユミ　長江さをり　中嶋野香　長谷川まり子
林亜紀子　武藤禎

《里親賛助会員》

阿部真里子　石原正行　伊藤芳樹　宇田川江美　大田多恵　奥井眞佐子　小野浩司
尾花好恵　笠原礼子　木村良枝　工藤節子　國森佳子　久保田明人　櫻井るり香
佐藤圭都　渋谷修　鈴木樹代子　宗祥子　高橋多美子　瀧口修薫　土居裕見子
轟木元枝　外岡ラズムシャズ　西部徹　西堀喜則　野口みどり　林和夫
平井英津子　平野善之　前澤洋子　松永一夫　丸山竹士郎　水上直樹　宮田泰司
元田智子

《一般賛助会員》

秋山洋子　生田卍　石渡裕康　伊東浩一　稲葉資郎　今村久美子　上野祥子
上原準　江口敏　大黒やより　大野国貢　岡部陵佳　小澤弘江　春日恵
加藤光子　木谷招子　木藤陽子　坂本淳子　島村京子　下田伸子　鈴木明子
竹内淳子　千葉幸子　中野陽子　名田文子　西野章男　野口恵里花　橋本篤
長谷川隆三　藤城裕子　松岡静枝　松本聡子　水崎朋子　三谷理　峰﨑はなこ
三原一夫　村上隆男　森谷里美　吉田久美子　吉田茂　渡辺敦子

《学生会員》

石澤知世　小松原もなみ

【寄付をしてくださった皆さま】

（2020 年 10 月～2021 年 9 月）

秋山佳子　阿守優美　生田卍　石原正行　伊東浩一　伊藤芳樹　今中正次
上田朋子　上野祥子　上原準　近江京子　大田多恵　大野国貢　岡部陵佳
尾崎可奈　小野浩司　小野寺一彦　笠井育子　春日恵　加藤光子　金井京子
神谷学　川村汎子　木藤陽子　久保田明人　久保田節子　國森佳子　桑田真由美
古賀ミチ　小手川弘子　小林のぶ江　小松原もなみ　斎藤幸一　坂谷内勝明　佐藤忠志
篠原マリ　渋谷修　下田伸子　鈴木重男　関智美　関谷朱桜実　瀬谷直子
大一電工株式会社　高橋多美子　竹林早苗　田中裕美　田邉浩一　田邊暢子
玉橋紳一郎　堤田芳和　手島綾　土居裕見子　轟木元枝　長江さをり　中野陽子
ニシオカユキコ　西部徹　西堀喜則　橋本成一　橋元尚美　林和夫
平井英津子　平野善之　廣原麻美　福原匡伸　藤田一彦　別府浩一郎　前澤洋子
俣野美代子　松永一夫　丸山竹士郎　三橋久子　武藤禎　村上隆男　元田智子
山口泰正　有限会社フットフィール　横田眞二郎　吉田久美子　吉田茂　匿名希望

【ボランティアとして活動に参加してくださった皆さま】

（2020 年 10 月～2021 年 9 月）

秋山佳子　　石川重美　　亀尾麻彩子　　久保田明人　　長谷川まり子　　林亜紀子　　武藤禎

【活動にご協力くださった団体・皆さま】

（2020 年 10 月～2021 年 9 月）

株式会社風の旅行社　　株式会社光文社　　倉田春香（NPO 法人 Bonds of Heart）
佐藤圭司　　大一電工株式会社　　手島綾

【理事・役員】

理事

長谷川まり子	代表
秋山佳子	渉外（info メール）担当
石川重美	会計・会員名簿・ホームページ担当
上原翔子	NDWS・各種補助金申請担当
亀尾麻彩子	商品管理・イベント・ビーズプロジェクト担当
下窄あゆみ	商品管理・イベント・ビーズプロジェクト担当
須賀香奈	NDWS 担当・里親会員・年間スケジュール管理担当
高柳ユミ	翻訳チーム・渉外（info メール）・各種補助金申請担当
中嶋野香	会計・渉外（info メール）・各種補助金申請担当
林亜紀子	里親会員・翻訳チーム・各種補助金申請・NDWS 担当

監事　　門垣裕子　　武藤禎

会計監査　　門垣裕子

顧問　　間部俊明（弁護士）　　朏博一（税理士）

評議員　　高橋国和　　新倉元彦　　三谷理

※本誌記事および画像の無断転用を禁じます。